

Newsletter

JAPAN SOCIETY OF EDUCATIONAL INFORMATION

日本教育情報学会

NO.128 2009.3.31

〒500-8813 岐阜県岐阜市明徳町10番地 杉山ビル4F 岐阜女子大学 文化情報研究センター内
日本教育情報学会 運営本部事務局 Tel:058-267-5233 Fax:058-267-5238
E-mail:nkjg@gijodai.ac.jp http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsei

日本教育情報学会第25回年会

8月22日(土)~23日(日) 於:立命館大学

年会テーマ 21世紀の教育改革の行方を探る

本年度の第25回年会は、8月に立命館大学を会場に開催いたします。本日、大会の概要と研究発表の応募に関する内容をお知らせいたします。

下記の要項をご熟読の上、期限内に手続きしていただきますようお願いいたします。ご参加とご発表をされること、心よりお待ちしております。

第25回年会実行委員長 沖 裕貴

期 日 : 2009年8月22日(土)・23日(日)

会 場 : 立命館大学 朱雀キャンパス

所在地 〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1

交 通 JR・地下鉄二条駅 徒歩2分

阪急大宮駅 徒歩10分

http://www.ritsumei.jp/index_j/html

事 務 局 : 立命館大学 教育開発推進機構内
日本教育情報学会第25回年会実行委員会

Tel:075-465-8304 内線7153

E-mail: f-inoue@fc.ritsumei.ac.jp

年会テーマ : 「21世紀の教育改革の行方を探る」

共 催 : 立命館大学,全国私立大学FD連携フォーラム

協 賛 : 関西地区FD連絡協議会

後 援 : 大学コンソーシアム京都,京都府教育委員会,京都市教育委員会

日 程 (時間は予定)

8月22日(土) 1日目		8月23日(日) 2日目	
9:30~	受付開始	9:30~	受付開始
10:30~12:00	基調講演	10:00~12:00	課題研究発表/一般研究発表
12:00~13:00	・昼食・休憩 (理事会・評議員会) ・実践的FDプログラム体験	12:00~14:00	・昼食・休憩 ・実践的FDプログラム体験
		13:00~13:30	研究会フリートーキング
13:00~14:00	総会・学会賞表彰式	13:30~15:30	課題研究発表/一般研究発表
14:00~15:30	パネル討論	15:30~17:30	課題研究発表/一般研究発表
15:45~17:45	ミニシンポジウム/課題研究発表		
18:00~	懇親会		

(1)基調講演

「21世紀の教育改革の行方を探る」

結城章夫 (山形大学 学長)

(2)パネル討論

テーマ「教育と研究の両立を目指すFD」

コーディネータ：江原 武一 (立命館大学教育開発推進機構)

・パネリスト：結城章夫 (山形大学学長), 川口清史 (立命館大学学長), 後藤忠彦 (岐阜女子大学学長・日本教育情報学会会長)

[趣旨]

カーネギー大学教授職国際調査・日本版によると,四年制大学の大学教員(1889名:’92年,1095名:’07年)は,全体として研究志向が若干減少(73%:’92年→68%:’07年)したものの,依然研究志向が強く,私立一般大学でも半数を超えている.しかしその一方で,高等教育が急速に大衆化し1960年代以降の約50年間に,大学は大学教員中心の研究重視型から学生中心の教育重視型へ大きく変わり,大学教員の役割として学生の教育はますます重要になった.今求められているのは教育か研究かと言う二律背反の議論ではなく,どちらも大学教員の役割として重要な教育と研究のバランスをどう図るかであり,FDはそれをどう支援するかが問われていると言ってよい.教職協働や学生参画,ピア・サポーターやICTなどの活用を通して,教育と研究の両立を目指すFDをどう設計するか,パネリストとともに考えたい.

(3)ミニシンポジウム

■シンポジウムI:テーマ「FDの組織化と評価」

コーディネータ:沖 裕貴 (立命館大学)

・シンポジスト:佐藤浩章 (愛媛大学), 岩部浩三 (山口大学), 宮浦 崇 (立命館大学)

[趣旨]

FDは大学設置基準等で「授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究」と定義されている.FDは各大学の条件を踏まえた固有の取組であり,その実践はすべて個別の文脈に沿って理解し,評価されなければならない.しかし,各大学で切磋琢磨する「組織化」に至る活動は,決して固有性のみが強調されることはなく,共有や汎用につながるアイデアを隠し持つことが少なくない.本ミ

ニシンポジウムでは、FDの組織化の方策について、教育コーディネータ制度による画期的なFD組織化を実現した愛媛大学と、カリキュラム・マップを用いた実質的なFD組織化を創造した山口大学の事例から学ぶとともに、FDの評価を、教学組織がどう変容したかという質的評価で検証を試みる立命館大学の事例をもとに考えたい。

■シンポジウムⅡ：テーマ「実践的FDプログラムの開発と大学連携」

コーディネータ：林 徳治（立命館大学）

・シンポジスト：池田勝彦（関西大学）、小川 勤（山口大学）、福井正康（福山平成大学）、井上史子（立命館大学）

[趣旨]

大学では、国立・私立、学生規模を問わず、困難な教育条件（クラス規模の大きさ、教員の持ちコマの多さ、学生の学力・学習意欲の多様性など）の克服を目指し、授業改善について様々な取り組みが行われている。本セッションでは、大学で取り組んでいるFD活動についての事例を紹介して、今後の取り組みの方向性や大学間連携の在り方について議論したい。

■シンポジウムⅢ：テーマ「学生調査とIR」

コーディネータ：鳥居 朋子（立命館大学）

・シンポジスト：小湊卓夫（九州大学）、山田礼子（同志社大学）、難波輝吉（名城大学）、野田文香（立命館大学）

[趣旨]

今日、学士課程教育の質的向上や「学士力」の内容をめぐる議論を背景に、学生の学習成果や授業の満足度等に関する調査に基づき、教育改善をはかる取り組みが注目されている。そうした文脈において、とりわけ学生の学びに関する情報・データの重要性とともに、それらの情報・データを実効性の高い教育改善にどのように活用していくかが問われている。まさに高等教育マネジメントの観点から、いわゆる教学領域のIR(インスティテューショナル・リサーチ)としての学生調査の有効性を検討する課題である。そこで、本ミニシンポジウムでは、国内外の大学における教学領域のIRに関する実践研究の知見を手がかりに、学生調査という側面から日本の大学におけるIRの問題点と課題を追究してみたい。

■シンポジウムⅣ：テーマ「これからのStaff Development(SD)の方向性」

コーディネータ：浅野 昭人（立命館大学）

・シンポジスト：樋口浩朗（山形大）、八重樫文（立命館大学）、金剛理恵（立命館大学）

[趣旨]

昨年末に出された「学士課程教育の構築に向けて（中教審答申）」では、「大学院等で専門的教育を受けた職員が相当程度いることが、職員と教員とが協働して実りある大学改革を実行するうえで必要条件になってくる」と述べている。しかし、今日、教育現場で求められている「インスティテューショナル・リサーチャー」や、「インストラクショナル・デザイナー」、「研究コーディネータ」、「学生生活支援ソーシャルワーカー」などは、既成の職員が担ってきた業務領域や、業務力量を超える専門性が求められるものであり、教員でもなく、職員でもない中間領域的な職種の可能性を示している。そこで、本ミニシンポジウムでは、これからの職員像とその職能開発を、各シンポジストが歩んできた経歴を手がかりに、あえて教員と職員の違いにこだわって議論してみたい。

(4) 課題研究テーマ

課題1 著作権の動向

コーディネータ：坂井知志（常磐大学）、井上 透（国立諫早青少年自然の家）

教育機関で扱う各種情報の共有、公開を考えた場合、学生・生徒の氏名、メールアドレスや電話番号などの連絡網、写真、学習成果物等はプライバシー、個人情報保護の観点から慎重に取り扱わなければならない。さらに、著作権・肖像権保護をコンプライアンスの観点から取り扱うことは重要な課題である。本セッションでは、文化の継承とそれを担う人材の育成を考える観点から、教育に関する情報の共有化や利用をいかに考えるべきかを教育実践事例をもとに議論し、今後の教育情報の活用の方向性について考える。

課題2 学習支援環境(e-learning, blended学習)

コーディネータ：木下昭一（聖徳大学）、宮田 仁（滋賀大学）

情報化の進展に伴ってさまざまな教育手法が生み出される中でデジタル化された教材、またそれらをネットワークに乗せての配信、またさらにグループウェア、SNS の手法を取り入れた多面的な教育活動が繰り返されている。従来の方法を振り返り、あるいは組み合わせるなど、個性的で魅力的な実践を互いに紹介しあう機会を作ると同時に、真に学習者が伸びるための将来の展望を切り開きたいと思う。

課題3 学生参画型授業開発

コーディネータ：木野 茂（立命館大学）、本郷 健（大妻女子大学）

大学における学生参画型授業としては、1990年頃にアメリカで始まった協同（共同）学習をはじめ、グループ学習、学生参加型授業、双方向型授業、さらには学生発案型授業などの開発・実践例がある。最近ではアクティブ・ラーニングとも総称され、高等教育における学生の主体的・能動的な学びを引き出す教授法として注目されている。このセッションでは、新たな試みの実践報告も受けながら、学生参画型授業の今後の展望について考えたい。

課題4 革新的な初等・中等教育の実践

コーディネータ：陰山英男（立命館大学）、堀口秀嗣（常磐大学）

立命館小学校を中心として、脳の力を最大限に引き上げることが中核とする学力の向上、ならびに人間力の向上を研究のテーマとしている。一連の研究の中で、生活習慣を早寝早起き朝ごはんに代表されるような人間本来の姿に戻すことによって、学力の向上が見られることが確認できた。また、読み書き計算の高速の反復学習によって、短期間に知能指数が向上するなど、学力向上に加速度をつける方法を確認できた。現在は、これらをICTを使ったものに移植したり、得られた高い学習能力を応用的な学習にどう活用できるかを課題としている。

課題5 教員評価

コーディネータ：安岡高志（立命館大学）、若山暁一郎（十文字大学）

日本の高等教育（初等中等教育も同じであるが）における次の改革は教員評価である。厄介なことに、教員評価を行えば、教員が勝手に働くようになると思っている方々が多いことである。もしそうであれば、学生に成績を付ければ、学生は皆勉強するはずである。

教員が気持ちよく働けるのは個人評価か、組織評価か、管理者（評価者、経営者）の立場から、評価を受ける立場から、教育効果が期待できる評価の在り方について、多数の提案を期待している。

課題6 教員評価と学校評価(初等・中等)

コーディネータ：横田 学(京都市立芸術大学),北川敬一(大阪府立高槻北高校)

教員に求められる資質能力は,教科等の専門性に加え,組織変容に寄与できる組織力など多様である。また,学校評価は学校の教育力を高めることを目的とし,そのためには教員の資質向上が不可欠である。近年,教員評価や学校評価は,多くの学校で実施されているが,それらが本当に「子どもたちのよりよい成長」に繋がっているのだろうか。本セッションでは,何をどの様に評価するのか,さらに,教員に求められる資質能力とは何か,今一度原点に返り議論を深めたい。

課題7 デジタル・アーカイブ

コーディネータ：三宅茜巳(岐阜女子大学),久世 均(岐阜女子大学)

情報社会の進展に伴い,デジタル・アーカイブの対象は,博物館や美術館等の文化財を中心とされてきた時代から,地域に関わる文化活動・行政や企業等の資料・管理・公開へと新しい展開が行われてきた。このセッションでは,このようなデジタル・アーカイブの活用に関わる問題点やデジタル・アーキビストの養成に関する課題を議論し,今後のデジタル・アーカイブの展開についての方向性を考える。

課題8 教員免許更新制

コーディネータ：服部 晃(岐阜女子大学),佐藤正明(岐阜女子大学)

平成 19 年 6 月の改正教育職員免許法の成立により,平成 21 年 4 月 1 日から教員免許更新制が導入され,①平成 21 年 4 月 1 日以降に授与される教員免許状に 10 年間の有効期限が付されること,②10 年ごとに(平成 21 年 3 月 31 日以前に教員免許状を取得した者にも)2 年間で 30 時間以上の免許更新講習の受講・修了が必要となること,となった。国および教員の任命権者である教育委員会,教職課程認定大学等や各学校に勤務する教員の取組等,教員免許更新制をめぐる諸課題について,それぞれの立場による事例研究をもとに議論する。

課題9 特別支援教育

コーディネータ：太田容次(国立特別支援研),高市幸造(愛媛大学教育学部附属特別支援学校)

本課題研究では,その背景として,障害の重度・重複化や多様化,学習障害(LD),注意欠陥多動性障害(ADHD)等の幼児児童生徒への対応や,早期からの教育的対応に関する要望の高まり,卒業後の進路の多様化,ノーマライゼーションの理念の浸透などが見られる。こうした状況を背景として,学習指導要領で示されているように,特別な教育的ニーズのある子どもへの情報教育の充実,コンピュータ等の教材・教具の活用や,教員や学校の ICT 化を進めるため等の教育情報について情報交換したい。

(5)一般研究発表

- ・ 発表内容は「教育情報に関する研究」であれば,特に内容は問いません。「教育情報」は,大きくみて「教育に関する情報」と「情報に関する教育」が含まれています。
- ・ 想定される発表セッション(キーワード)は次の通りです。(五十音順)
- ・ 応募状況に応じてセッションを設定する予定です。

(6)研究発表申込み方法

① 申込締切

2009 年 5 月 16 日(土)

② 申込方法

Web による登録を行ってください。なお,不都合がある場合は,第 25 回年会サイト(<http://www.kenkyu-jsei.com/nenkai25/>)にある年会研究発表申し込み用紙をダウンロードし,メールの添付ファイルとしてお送りください。その他ご不明な点は,実行委員会事務局宛にお問

い合わせてください。

課題研究は Web サイトの「課題研究発表申込書」、一般研究は Web サイトの「一般研究発表申込書」に必要な事項をご記入の上、送信してください。

(Web の利用方法)

Web 登録を行うには、次の Web 登録用アドレスにアクセスしてください。

<http://www.kenkyu-jsei.com/nenkai/>

※登録時には会員番号と、学会申込用パスワードが必要です。

今回の学会申込用パスワードは「Ritsumei2009」（先頭はゼロ）です。

- 手順 1. Web 登録のトップページから、「課題発表申込み」か「一般発表申込み」をクリックします。
- 手順 2. 会員番号と学会申込用パスワードを入力して「ログイン」ボタンをクリックします。
- 手順 3. 申込用フォームに必要な事項を記入して、送信します。
- 手順 4. 登録が無事終了すると論文投稿用のパスワードが示されます。論文投稿時に必要ですので、パスワードは必ずメモしておいてください（またはそのページを印刷して保管してください）。

インターネット、遠隔教育、遠隔教育システム、学習ソフトウェア開発（教育用ソフトウェア）、学習情報管理システム、学習評価、教育システム、共同学習（遠隔協働学習）、交流学习、授業分析、児童による情報作成、生涯学習、情報教育（カリキュラム論を含む）、情報教育システム、情報教材開発（コンテンツを含む）、情報検索、情報処理教育、データベース、動画教材の開発、ネットワーク（活用、管理、LAN）、プレゼンテーション、ホームページ、マルチメディア（活用、開発等）、国際貢献・協力、国際理解、知的財産権、プライバシー、情報カテゴリー、eラーニング

③ 課題研究に関する注意事項

- ・課題研究は前記「課題研究テーマ」から選び、そのテーマに合った研究発表題目をつけてください。
- ・課題研究発表は年会実行委員会で調整し、テーマごとに担当コーディネータが検討し、審査します。その結果、発表否となる場合もあることをあらかじめご了承ください。なお、課題研究として発表できない場合には、一般研究を別に申し込んでいても課題研究分を一般研究発表として発表していただくことができる場合もあります。
- ・第 1 発表者（講演者）として課題研究発表は、1 人につき 1 件のみとします。ただし、年会実行委員会から特に依頼された課題研究発表についてはこの限りではありません。

④ 一般研究に関する注意事項

- ・第1発表者（講演者）としての一般研究発表は、1人につき1件のみとします。
- ・一般研究発表の発表者は、発表の時点で会員である必要があります。非会員の方は、事前に学会入会の手続きをしてください。学会入会申込書は運営本部事務局にご請求ください。

⑤ 発表申込書の書き方について

- ・講演者とは、研究発表会場で口頭発表する会員です。
- ・共同研究者は何人でもかまいません。
- ・概要はなるべく詳細に書いてください。
- ・キーワードとして前記発表セッション名の中から数語を含めて5語以内を選んでください。
- ・会場で使用できる機器は、プロジェクタです。パソコンは各自で持参してください。書画カメラの使用を希望する場合、あるいは予め持参する機器がある場合は、事務局への連絡欄にその旨を記入してください。
- ・執筆要項などの送付先（メールアドレス等）は、発表者への連絡時期である6月中旬を想定して、自宅または勤務先を記入してください。

(7) 発表者への連絡

- ① 発表者には、6月上旬までには発表の可否をメールで連絡します。
- ② 発表を可とされた申込者に対しては、論文の執筆要項をお送りします。
- ③ 論文の原稿枚数は2枚（一般研究）、4枚（課題研究）とします。原稿は「年会論文集」の版下の形で、Webから提出していただきます。

(8) 参加費について

・会員事前申込締切日まで

参加費 3,000円 資料代 3,500円 懇親会費 5,000円（予定）

・会員（当日）・非会員

参加費 4,000円 資料代 3,500円 懇親会費 5,000円（予定）

※ 参加申込みは、後日送付する「年会参加申込書（兼）参加費振込用紙」（郵便振替）をご利用ください。

・論文集の郵送申し込みについて（年会に参加されない方）

年会に参加されないで論文集を購入希望の方は、参加申込書の該当欄にご記入の上、申し込みをしてください。年会終了後論文を送付します。

論文集 4,000円（郵送費、事務諸費を含む）

・共催および後援関係の方

新規の方の参加を歓迎します。共催である立命館大学教職員（付属校を含む）、全国私立大学FD連携フォーラム参加大学教職員（付属校を含む）、および後援・協賛いただいた教育委員会所属の先生方、関西地区FD連絡協議会会員校教職員、大学コンソーシアム京都会員校教職員の参加は無料とします。（論文集代は申し受けます）

(9) 宿泊について

・宿泊に関しましては、各自で手配いただきますよう、お願い申し上げます。夏休み中は京都市内のホテルは混み合うことが予想されます。早目の手配をお奨めします。

(10)これからのスケジュール(予定)

- ① 発表申込締切 2009年5月16日(土)
- ② 発表決定通知 2009年6月1日(月)
- ③ 論文提出締切 2009年7月10日(金)
- ④ 参加申込締切 2009年8月7日(金) (=参加費支払締切)

発表申込書送付先・問い合わせ先

〒603-8577 京都府京都市北区等持院北町56-1 立命館大学 教育開発推進機構
日本教育情報学会第25回年会実行委員会 事務局 井上史子
Tel:075-465-8304(内線7153) E-mail: f-inoue@fc.ritsumei.ac.jp

***** 運営本部事務局よりお願い *****

☆年会費お支払いについて

先に送付いたしました「会費振込用紙」(郵便振替)をご利用いただき、手続きをお願いいたします。本学会は会員の皆様からの会費によって運営されております。学会の正常な運営のためにも、趣旨ご理解の上、お早めに手続きをいただきますよう、ご協力をお願いいたします。

なお、2008年度までの会費のお支払いが、まだお済みでない方は、新年度会費と合わせて手続きをお願いいたします。(お支払いいただいた後、振込金受領書は大切に保管してください)

学生会員の方へ

学生会員の方は、必ず「学生証」のコピー又はPDFファイルを郵送もしくはE-mailにて運営本部事務局まで、ご送付ください。

☆ご登録の住所・勤務先等の変更について

ご自宅や所属先の住所等に変更がある場合は、氏名・会員番号と変更事項をご記入の上、E-mail,FAXもしくは郵送にて、運営本部事務局へご連絡ください。

☆学会誌「教育情報研究」の投稿について

「教育情報研究」または「ホームページ」に掲載の『投稿要領』をご確認のうえ、『投稿の手続き』および『執筆手順』に従い、『投稿票』を添えて、運営事務局へご投稿下さい。

なお、投稿票はホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsei> から、ダウンロードできます。

日本教育情報学会 運営本部事務局
〒500-8813 岐阜県岐阜市明德町10番地 杉山ビル4F
岐阜女子大学 文化情報研究センター内
Tel:058-267-5233 Fax:058-267-5238 E-mail:nkjg@gijodai.ac.jp